

共に学びを進め合う子供の育成（2年次）

～共調整を促し、自己調整する方法の習得を目指す授業づくり～

目指す子供の姿の実現に向け、黄色枠の手立てを行っています

本研究における子供が「共調整」している姿

観察・被観察



援助要請・提供



評価・被評価



共調整を促す手立て

他者と関わる必要感を生む



互いの考えを可視化する



関わりやすい環境を整える



関わるよさを感ぜられるようにする



他者と関わりながら、共に学びを進めていく（共調整）

振り返り

課題設定

解決の見通し

解決

振り返り

課題設定

振り返り

課題設定

解決の見通し

解決

振り返り

課題設定

振り返り

課題設定

解決の見通し

解決

振り返り

課題設定

自己調整する方法を使いながら、4つの学習場面を自ら進めていく

各学習過程における、「自己調整する方法」の例

<p>1. 課題設定</p> <p>これまでに学習したこととの違いを見付ける</p>	<p>2. 解決の見通し</p> <p>取り組むこととその順番を決める</p> <p>「自分でできそうだな」という見通しを立てます。</p>	<p>3. 解決</p> <p>複数の考えを比べる</p>	<p>4. 振り返り</p> <p>分かった、できた理由(学び方)を振り返る</p> <p>自分なりの気づき</p>
--	--	-------------------------------	--

方法の習得までの段階



正しく方法を知り、
方法を思い出し(他者の力や、自分で)ながら
方法を使う経験を繰り返すことで
方法の習得を目指す

単元・題材の目標

達成意欲を高める
目標共有の工夫

方法の習得の段階に合わせた手立て

認知段階

方法の具体、手順やよさの確認、モデリング、モニターで提示 など

想起段階(他者)

「どうすればよかったかな?」等の問いかけ、方法を使っている他者への注目を促す など

想起段階(自己)

直接的な指導は控え、環境(掲示物等)のみ残す など

方法の習得



教師の手立てを徐々に変えていく

方法を使いやすくする手立て



つまずきの予測→それを解消する「場の設定」や「教具の工夫」

方法のよさを感じられるようにする手立て



過程と成果をセットで捉えられるようにする